

Work Life Balance

総務省では、「ワーク・ライフ・バランス」の推進にも力を入れています。みなさんは入省後、結婚や出産などを経て、働き続けることをイメージすることができるでしょうか。今までとは異なる環境に置かれたとき、今までと同じような働き方をするのは、難しくなることもあるかもしれませんが、そこで、育児休業制度はもちろん、育児休業からの復職後も、「育児時間」や「テレワーク」など、仕事と育児の両立を目指すためのさまざまな制度が用意されています。今では、女性職員だけでなく、男性職員でも制度を活用する人が増えています。



安藤 弥生

平成15年入省
育児休業(H25.9~H26.4)

テレワークを活用して 育児と仕事の両立を

テレワークでは、総務省のパソコンを自宅に持ち帰って仕事をする事ができるため、時間や場所の制約がなく、柔軟な働き方ができます。私の場合、通勤の往復2時間+昼休み1時間を家事や育児に充てることができ、子供とのふれあいの時間が増えるなど、仕事と家庭の両立に大いに役立っています。また、緊急時の対応も可能となることから、急な用務が生じたり、急病や災害等で出社できなくなった場合のリスクヘッジにも有効です。



浅川 貴義

平成17年入省
育児参加のための休暇

制度を利用して パパも育児参画へ

2人目の子が生まれた時、男性職員も取得できる「育児参加のための休暇」を活用し、1ヶ月間毎日1時間早めに退庁し、産後間もない妻に代わり上の子の保育園のお迎えをしたり、2人の子供をお風呂に入れたりしました。この間は勤務時間が限られるので、職場の理解・協力も得つつ、自分でも効率的に仕事をこなせるようしっかりスケジュールを立てて取り組みました。育児は悪戦苦闘の毎日ですがそれ以上に楽しみも多く、日々働くエネルギーになっています。



岸 恵理子

平成21年入省
育児休業(現在)

育児休業で気付くこと

短・中・長期スケジュールを念頭に、定例的なこと(衣食住の提供)をこなしつつ、突発的なこと(愚図り、発熱等)に迅速に対応できるよう頭をフル回転させる毎日、仕事にも育児にも共通していると感じます。一方で、当たり前ですが、育児中は隣席に上司や同僚がいません。すぐに相談したり、時には愚痴をこぼすことができる上司や同僚に恵まれていたことに、育児休業を通して改めて気付かされました。



白土 香織

平成23年入省
育児休業(現在)

子供との海外生活を経験して

私は、育休期間中に生後半年の娘とともに夫の海外留学(2年間)に同行しました。長期間職場を離れることに不安もありましたが、子育てや海外生活をとおして自分の知らなかった世界に出会い、私自身も成長することができました。娘のお陰で人間関係が広がり、様々な国籍の家族とお互いの文化を紹介しあったプレイデートはよい思い出です。職場復帰後も、育休期間中に得た経験を活かせる機会が必ずあると信じています。

男女別の育児休業取得率等 (平成28年度)

	育児休業取得率 ※1	配偶者出産休暇 ※2
女性職員	100%	
男性職員	10.8%	68.8%

※1 平成28年度中に新たに育児休業が可能となった職員数に対する同年度中に新たに育児休業をした職員数の割合

※2 平成27年度に子が生まれた男性職員のうち、配偶者出産休暇を1日以上使用した男性職員の割合

テレワーク利用実績 (年度別)

